

主役はだれ？（プリプリ中華のためへん）

作 令和五年度 伏見板橋小学校
給食調理員



四時間目の生活の、じゅぎようがおわってきゆうしよくの時間になりました。

きゆうしよく当番の人がせつせときゆうしよくをくばっています。今日のきゆう

しよくはプリプリ中華のためです。

あらたに知美さんのつくえにも、おいしそうな湯気を

あげているプリプリ中華のためくばられました。

「今日は大きなプリ中だ。このプリプリ

中華のためはどうしてこんなにいいんだらう…。

知美ちゃんは自分のつくえにおかれたプリプリ中華

いためにじつとながめ、こんなお話を考えました…。



「おいしい小学校のやさしいたちは、今日もにぎやかです。じゅぎょうの始まりのチャイムがなり、たんんの竹原オール先生が来ました。先生は、パンパンと手をたたいて言いました。

「みんな、すわりなさい。今日は、学習はつぴよう会です。ミュージカルの主役をだれにするか決めたいと思います。」
すると、いつも話を聞かないにぎやかコンビの、しょうがの土田 しょうが君と、にんにくの『かおりにくみ』ちゃんが



「わたしたちが主役だよ。だって、わたしたちがいなかったら、あじもかおりもひきたたないもんね。」

と声をそろえて言いました。

そこへ、いばりやのとりにくの『とりい けいすけ』君が「いやいや、ぼくが主役やろ。なにしろぼくは、みんなに好かれているし、やきとりだってからあげだって、ものすごい人気やろ。せやからぜったいぼくや。」
と言いました。



すると、自分が一番えらいと思ってるほししいたけの『星しいた』君も
「ぼくが主役さ。だって、ぼくは、生シイタケもあるし、
ほししいたけもあるんだよ。ほししいたけのぼくは、
だしじるもとれるんだよ。やっぱりぼくが主役だ。」
と言います。

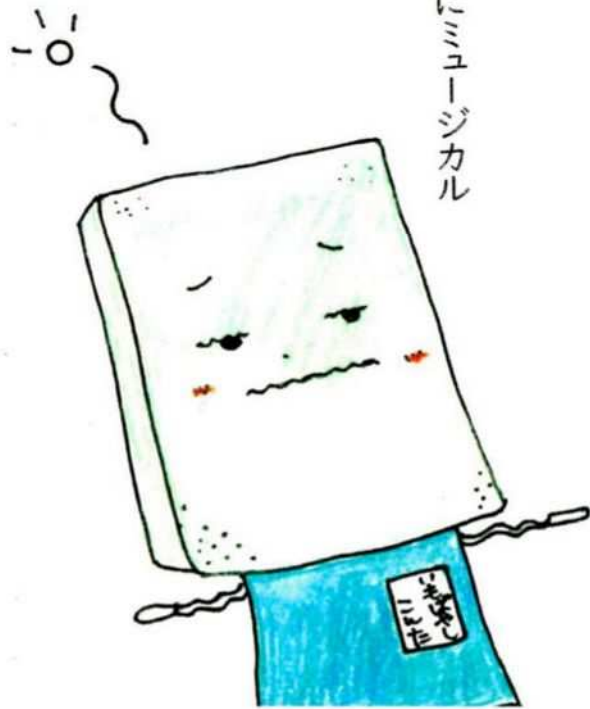


さらに、自分が一番かがやいていると思ってるにんじんの『にったじん子』
ちゃんが
「いえいえ、わたしが主役よ。だって、わたしは、ラッキー
にんじんになれるんだから。そんなのわたしだけよ。」



と言いました。

でも、フニャフニャいつもやる気のないこんにゃくの
『いもばやし こんた』君は
「ぼくは、べつに何でもいいう。べつにミュージカル
なんてやる気もないしー。」
とダラダラ言いました。



うずらたまごの『うずらたまよ』ちゃんとたけのこの

『たけの竹子』ちゃんも

「わたしたちは、はずかしいから…なんでも…」

と言いました。



学級いんがっきゆうをしているたまねぎの『玉木ねぎ子』ちゃんたまきは、今いまにもなきだしそ
うなかおになりました。

「みんな、なんでそんな自分じぶんかってなことばかり言うの？ そんなんじゃないミュー
ジカルなんてできないじゃない。」

心こころの中でねぎ子ちゃんねぎこちゃんはつぶやきました。

「だれか、たすけて…。」

すると、そこに一本のキラキラした光ひかりがさしました。

「どうしたのかな。なにかこまっていることでもあるのかな？」

ねぎ子ちゃんがふりかえると、そこにはきゆうしよくちようりいんさんがいました。

こまったねぎ子ちゃんねぎこちゃんはこたえました。

「みんな、すきかってするの。今日中きょうちゅうに主役しゅやくをきめなくてはいけないのに。」



「それはこまったわね。では、わたしたち、ちようりいんさんが、みんなにまほうをかけてあげるわ。まずは、けいすけ君から。」

一番はじめにまほうをかけられたのは、とりにくのけいすけ君でした。

「さあ、けいすけ君。みわくのごま油の中におはいり。」

ここで三十分、ゆつくり心をやわらかくするために
お休みなさい。」

けいすけ君は、ごま油の中に入ってねむりました。



「つぎは、『竹原 オール』先生と『かまたに じよう一郎』先生にもおてつだいしてもらおうわ。」

ちようりいんさんは、『かまたに じよう一郎』

先生のかまの中に、しょうがの『土田 しょうが』君と
ににくの『かおりにくみ』ちゃんを入れました。

そして、『竹原 オール』先生に右、左とタップして

もらいました。すると、しょうが君もにくみちゃんも、くるくるダンスをはじめ、

やがて二人からとてもいいかがりがしてきました。ちようりいんさんは、そこにと

りにくの『とりい けいすけ』君も入れてあげました。



ごま油あぶらの中でねむっていたけいすけ君くんは、もう自分じぶんかつてではない、やさしいけいすけ君くんにかわっていました。

その時とき、一人でダンスをしていたにんじんの『にった じん子』ちゃんなか たのは、かまの中で楽しく

ダンスをしている三人をうらやましく見ていました。

そんなじん子ちゃんに、ちようりいんさんは、まほうのことばをかけました。

「あなたは、いろんな料理りようりに入っているし、ラッキーになんにもなれるわ。でもね、一人でかがやくより、みんなと楽しくしていたほうがもつとすてきよ。」



ちようりいんさんのことばに、じん子ちゃんも、一人でかがやくよりみんなといっしょのほうが楽しいんだと、気づきました。

「えーい。」

じん子ちゃんは、思いきってかまの中なかにとびこんで、

三人といっしょにダンスをはじめました。

もう一人、自分じぶんが一番えらいと思っている

ほしほしいたけの『星 しいた』君くんも、こちらを見つめていました。

「しいた君くんもいっしょにどう?」



ちようりいんさんが話しかけました。でも、しいた君は、
いじをはってしらんぷりをしています。

「しかたないわね。」

ちようりいんさんは、まほうのプールにしいた君を

入れました。しばらくすると、カチカチだったしいた君の

心も体もやわらかくなり、

「ぼくも、かまの中で、みんなといっしょにダンスをするよ。」

とかまの中にとびこみました。



次に、ちようりいんさんは、教室のすみで、一人で空を

ながめているこんにやくの『いもばやし こんた』君にも、

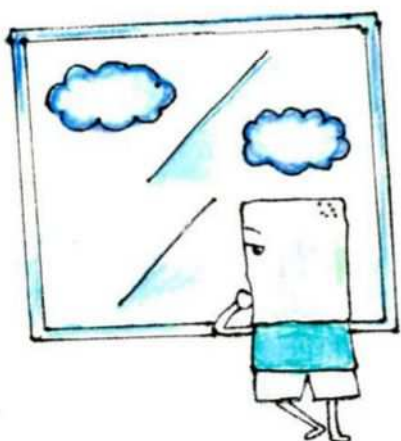
「こんた君もいっしょにダンスをしない?」

と声をかけました。でも、こんた君は

「ぼくは、いいよう。ここでダラダラ空にうかんている

雲を見ているほうが好きなんだあ。」

と言いました。

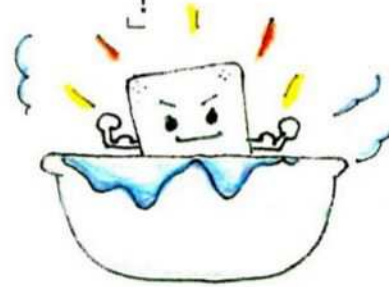


「それもすてきなことよね。でも、みんなでダンスをするのもものすごく楽しいわよ。ちようりいんさんが、まほうのおふろに入れてあげるわ。」

ちようりいんさんは、こんた君をあたかいお湯の中に入れてあげました。すると、こんた君はホカホカととてもいい気もちになりました。なにごとにもフニャフニャやる気のなかったこんた君は、体がひきしまり、やる気まんまんになりました。

「ほくも、みんなとダンスをしてみよう。」

「そうよ！みんなでダンスも楽しいわよ。いってらっしゃい！」

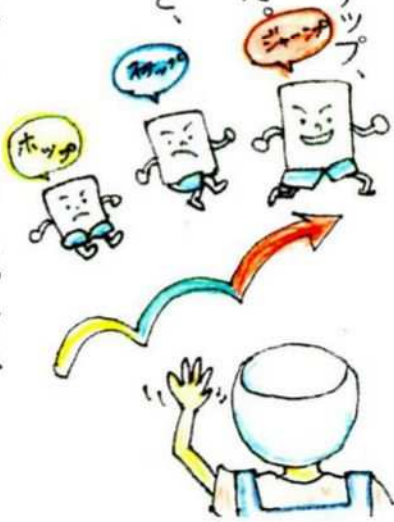
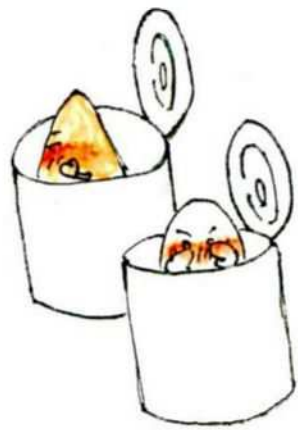


さつきまでのこんた君はもういません。ホップ、ステップ、ジャンプ！で、かまの中にとびこんでいきました。こんた君がかまの中に入っていくのを見おくと、ちようりいんさんの耳に、どこからかぼそぼそと

小さな声が聞こえてきました。うずらたまごの『うずらたまよ』ちゃんと、

たけのこの『たけの竹子』ちゃんです。二人はまだ、かんづめの中でうじうじしています。

「わたしたちは・・・」



と言いいながら、心こころの中では「ダンスたのって楽しそうよね・わたしたちもゆうきが
あつたらいいのにな。」と思おもっているのです。そんなうじうじしているたまよ
ちゃんたけこと竹子ちゃんに、ちようりいんさんは話はなしかけました。

「どうしたの？ゆうきが出でないの？それなら、わたしたちが、ゆうきの出で
まほうをかけてあげるわ。」

ちようりいんさんは、やさしく二人のかんづめのふたをあけてあげました。

たまよちゃんたけこと竹子ちゃんなかは、くらくかんづめの中なかからあかるい教室きょうしつへとゆつくり出でてきました。



「すごい。みんな楽しそう！」

みんなたので楽しなかくダンスをなかしているかまの中なかを

のぞいて、二人は、ゆうきが出でてきました。そして

、思おもいきってかまの中なかにとびこみました。

これで、全ぜん員いん、かまの中なかです。かまの中なかは本ほん当とうに楽しそう。

人ひとの話を聞きかない子こも、いばっている子こも、えらそうにしている子こも、自分じぶんが

一番いちばんかがやいていると思おもっている子こも、やる気きのない子こも、自信じしんのない子こも、も

ういません。今いまは、みんなみなで手てをつないで、楽したのくダンスをなかしています。



そんなみんなに『竹原 オール』先生と『かまたに じょう一郎』先生は、言いました。

「みんな、一人ひとり、すばらしいものをもっています。でもね、一つになって、いっしょに何かをすると、もっとすばらしいものになるんだよ！」

『竹原 オール』先生のピンとした立ちすがたと、『かまたに じょう一郎』先生のあついがたに、子どもたちは、心までホカホカになりました。そんなみんなの顔を見たちようりいんさんは、さいごのまほうをかけます。

キラキラしたまほうのあわだてきて、かたくり粉をくるりと水でとき、かまの中にそそぎました。

おいしいプリプリ中華いたのできあがりです！

今年の学習はつびよう会は、ミュージカル！

だれが一番すてきな主役なんてありません。

みんなが手をつないで楽しくタップをふめば、みんなが大すきプリ中ミュージ

カルのできあがり！ 今年の学習はつびよう会はすばらしいものがでるわね！

そのとき、板橋おいしい小学校の、じゅぎょうおわりのチャイムがなりました。



ぼうっとプリプリ中華ちゅうかのためのおさらをながめている知美ちゃんともみに、となりのせきの、いだもとのぞむ君くんが声をかけました。

「知美ちゃん、どうしたの？」
ともみ

知美ちゃんともみは、のぞむ君くんの声ではっとしました。

「あのね。このプリプリ中華ちゅうかのため、キラキラして
なんだかやさいたちが楽しくダンスをしている
みたいに思えたの。」
おも

のぞむ君くんは、知美ちゃんのおさらをのぞきこみました。



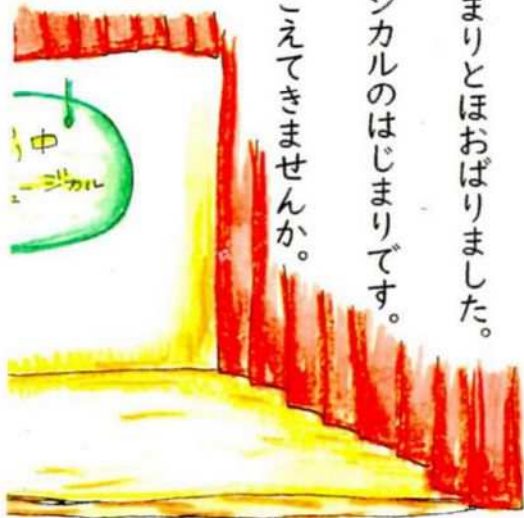
でも、のぞみ君くんには、いつもとか、わからない、ただのおいしそうなプリプリ中華ちゅうか

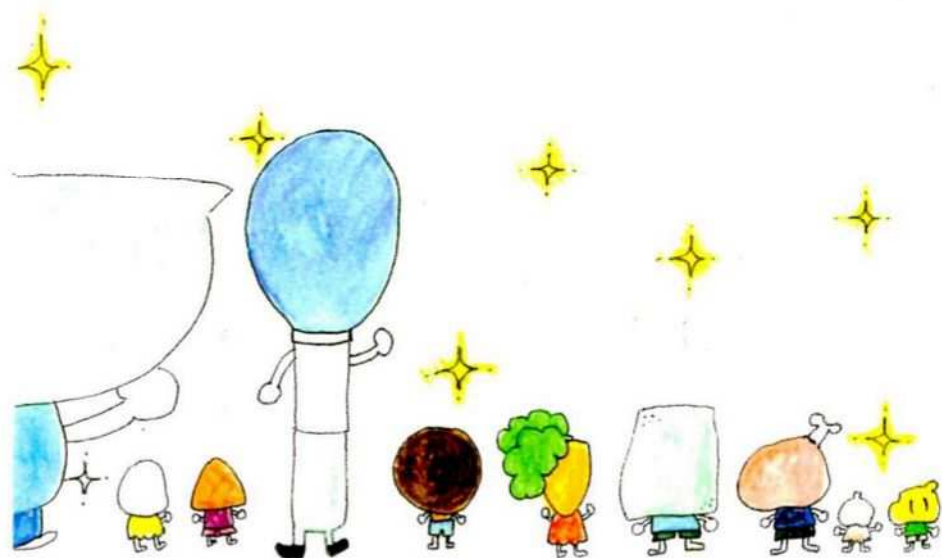
いためにしか見えません。知美ちゃんともみはくすりとわらって、そのおいしそうな

プリプリ中華ちゅうかいために、大きく口をあけてにんまりとほおばりました。

さあ！知美ちゃんのお口の中でプリ中ミュージカルのはじまりです。
ともみ

みんなのお口の中なかでも、はじまりのブザーが聞こえてきませんか。





次回は、^{じかい}どなりようりの^{はなし}お話かな。^{たの}楽しみにしててね。

おしまい